オーナーに、こっそり教えたいこんな店
第16回
西神田「台湾食堂 台南担仔麺（タイナンターミー）」
本屋街で出会った「台湾」本場屋台の味が楽しめる魯肉飯

取材の打ち合せも終わり、次の仕事に必要な文献資料を集めなくてはならず、神保町に繰り出す。交通の便もよく、新旧入れ替わりの早い街、神保町。新書から古書まですべてが揃う。

古地図、歴史書、漫画や写真集などなど。新刊を売っている三省堂は1階から6階までのフロアに常時約35万点、120万冊にも及ぶ書籍が本好きを飲みこんでいる。

江戸時代、この界隈は大名屋敷などが建ち並び、人はあまりいなかった。しかし、幕府直轄の教育施設「昌平坂学問所」が建てられ、これがのちに大学や師範学校となると、そこに在籍する学生や教師で人出が多くなる。そして彼らが必要とする貴重な本を販売する商売が始まり、これを追っかけるかのように古書店が開かれていくようになった。

ちなみに古書店の大半は日差しを避けるために北向きに立地している。今でも靖国通りの南側（北側間口）に書店は並んでいて、北側にあまり店はない。

そんな神保町、昨今、「カレーの街」的なイメージも強いが、実は歴史あるビアホール『ランチョン』、中国料理『新世界菜館』、餃子『スキートポーツ』、定食『キッチン南海』、古びた喫茶店『さぼうる』、半炒らーめん『伊峡』などグルメ文化も定着している。

書店で文献資料を探している合間、息抜きにグルメ情報誌を漁っていると、「台湾グルメ」の文字が。台湾といえば名古屋の激辛ラーメン『味仙』を思い出すが、そもそも「台湾料理」とはどんな料理なのだろうか。

調べてみると「台湾料理」は、実は日本人によってつくられた呼称であるようだ。日本が台湾を領有した頃、日本人が日本料理と現地の料理を区別するために使い始めたらしい。広東料理でもなく福建料理でもなく、そして北京料理でもない。大陸からの影響は強く受けているものかと思われるが…。

そんなことを考えていたら急に台湾料理が食べたくなった。文献資料探しそっちのけで書店を出て歩くこと7分、目的の店に到着した。

「台湾食堂 台南担仔麺（タイナンターミー）」

食堂と謳うだけあって料理のメニューは多い。フロアスタッフ、厨房スタッフともに本場台湾の言葉が飛び交っている。日本語は注文とお会計の時だけでよく聞き取れない。こんな時は言葉よりもメニューの写真で注文するのが間違いない。

終日の疲れを吹き飛ばすために、まずは台湾ビール（500円）を注文。透き通った飲みやすいビールである。

次に中華圏特有の火力で勝負する料理、A菜（エーサイ／815円）だ。胡麻油でさっと炒めたその品は鮮度抜群の瑞々しい野菜が楽しめる。味付けはいたってシンプルな塩のみ。

そして小籠包（6個／750円）。肉の旨味が凝縮され濃厚な肉汁が口の中で広がっていく。

食欲のエンジンに火が灯る。続いてまたも火力爆発の黒胡椒牛柳（730円）。メニュー写真同様、肉がてんこ盛り。ジューシーな肉の旨味をとろみで包み、オイスターソースが味を引き立てる。白飯が欲しい…。

食べ物を喉に流し込むために台湾陳年（紹興酒5年物2500円）のボトルをオーダー。熟成させているせいなのか、とても味がまろやかで、知っている紹興酒とは少し違う。ツンとしたアルコールが飛ぶ気配がまったくなく、甘味とコクがある。

つまみに豚角煮の蒸しパン包み（1個／290円）。肉まんとは違い、生地が少々厚く、そのなかにとろけるような角煮が「格納」されている。八角の香り漂う角煮と少し甘みのある生地がマッチングしている。

ふと気づけば店内は満席で並んでいる人も。客層もカップルに女子会、老夫婦と、台湾料理はシチュエーションを選ばないのかもしれない。

最後に飯ものを注文。台湾料理の真打、魯肉飯（820円）だ。角煮と煮玉子に特製のタレがかけてある。これは旨い。脂っこそうにみえるが、パクチーが入っているので爽やかな旨味が楽しめる。

「台湾」を満喫し、まだ名残惜しいが心を鬼にして店を出る。そう、もう一度書店に戻り、文献資料を探すのだ。

ねこやま推薦度数 ★★★★☆（満足）

取材協力：「台湾食堂 台南担仔麺」
場所：東京都千代田区西神田2-1-13　十勝ビル2F
電話：03-3263-4530　※予約可
営業時間：月～金［ランチ］11:00～15:00（L.O.14:30）
［ディナー］17:00～23:30（L.O.22:50）
土・日・祝［ランチ］11:30～15:00（L.O.14:30）
［ディナー］17:00～23:00（L.O.22:20）
定休日：年中無休
参考予算：［昼］～999円　［夜］2,000～2,999円
Card:可（VISA、MASTER、JCB、AMEX）※電子マネー不可
サービス料・チャージ:無し　席数:55席　喫煙可
掲載内容は2019年1月末日時点のものです。価格はすべて消費税別。

文／写真:ねこやま大吉

長年出版業界に従事。食べ物からファッション、ペットまで幅広いジャンルの雑誌を手掛ける。趣味は散歩・食べ歩き。現在埼玉県・青森県を精力的に取材中。「旨いもの」「これぞ日本！というもの」を日々探して走り回っている。